

# 健康メモ

## 恙なく、怖い感染症に気をつけて

中区医師会理事 竹本 元義  
たけもとクリニック院長

恙(つつが)

は病気や災難という意味です。

昔、正体不明の虫に刺された後



に発症する致死的な病気があり、恙虫という妖怪の仕事と考え病気をツツガムシ病と呼んでいました。現在、野ねずみ等に寄生するツツガムシというダニの一種が媒介するツツガムシリケツチャが原因と判明しています。北日本の風土病と考えられていましたが、広島県内でも存在し、私もツツガムシ病からDIC(播種性

血管内凝固諸侯群)を合併しどうか救命しえた症例など経験しています。春から秋にかけて山中や畑でツツガムシに刺されて発症します。一

二週間の潜伏期の後発熱、発疹、全身倦怠感等の症状が出現します。

特徴的な刺し口があるので、専門家が診れば診断できます。重症例ではDICや多臓器不全を来し死亡する場合もあります。これからアウトドアの機会も多くあり注意して下さい。

さて、恐ろしい感染症と言えば、

SARSやBSEや、鳥インフルエンザが毎年のようにマスコミに取り上げられています。しかし身近に確実に増加している恐ろしい感染症はHIV(ヒト免疫不全ウイルス)感染症、AIDSです。HIVに感染し、免疫異常を来し癌や特殊な感染症を合併したものがAIDSです。

HIV感染者は全国的には2006年に新たに92件報告され過去最高の

報告数となっております。外国人だけの感染ではなく、日本国籍例が86件。感染経路は異性間の性的接触が23.4%、同性間の性的接触が63.4%で、同性愛者だけの病気ではありません。大都市だけではなく、広島市でも、02年二例03年五例04年二例05年一二例06年八例07年(7月24日現在)七例新たに報告されています。これは氷山の一角であり、実際には100倍もの感染者がいるかもしれません。市内でも町の開業医で見つかる例も出ています。私達の子供達の時代ではさらに増加し身近な病気になっていくでしょう。病気の進行を遅らせる治療法も開発されていますが、大切な事は感染しないようにすること、早期発見により感染の拡大を防ぐことです。進んで検査を受けましょう。

